

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1. 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2. 実施対象学年

小学校第6学年，中学校第3学年

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

- 国語A，算数・数学A 主として「知識」に関する問題
- 国語B，算数・数学B 主として「活用」に関する問題
- 理科

(2) 学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

4. 実施期日

平成27年4月21日（火）

II 結果の概要

1. 概況

・平均正答率について

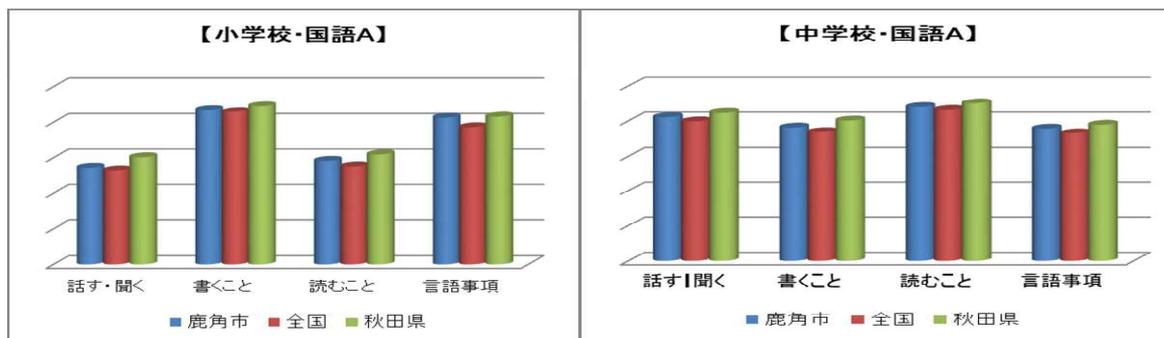
小・中学校とも全国と比較した場合は良好である。秋田県と比較した場合、小学校・中学校ともに国語，数学，理科いずれも下回った。昨年度と比較した場合，小学校では国語Bで県との開きが大きくなったが，数学Bでは逆に差が縮まった。中学校はいずれの教科でも県との差が広がった。

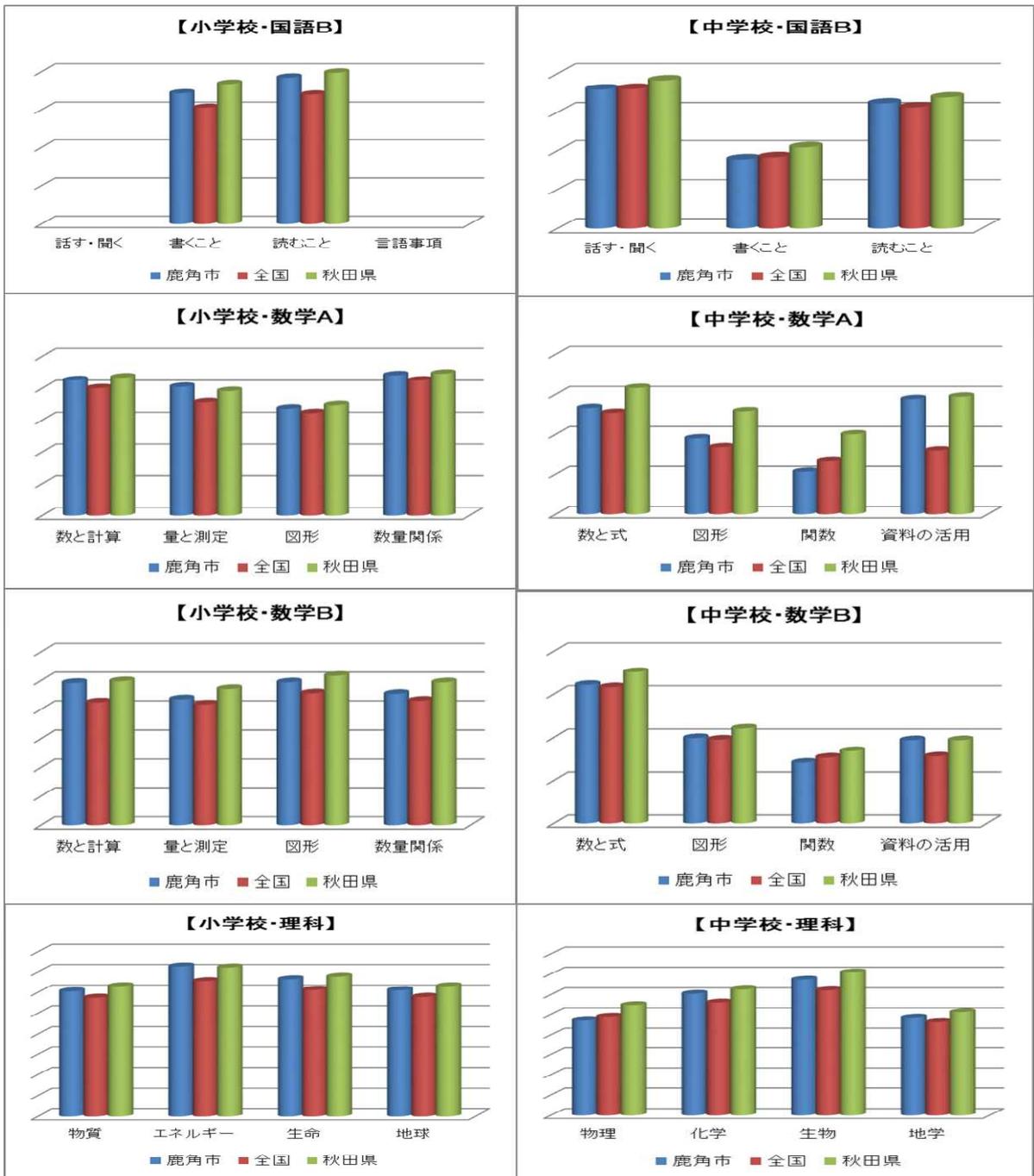
・領域別平均正答率について

小学校の場合，秋田県と比べると，算数A「量と測定」と理科「エネルギー」の領域で上回った。それ以外の教科・領域では全て下回った。国語A「話すこと」，国語B「書くこと」は県との差が5ポイント以上あった。

中学校は，数学B「資料の活用」で県と同じ正答率だったが，それ以外の教科・領域はすべて県を下回った。このうち全国を下回ったのは次のとおり。国語B「話すこと・聞くこと」，「書くこと」数学A「関数」，数学B「数と式」，「関数」，理科「物理」。

2. 領域別平均正答率の結果（全国・県との比較）





3. 小問別平均正答率の結果

	教科	設問数	全国平均正答率との比較
小学校	国語A	1 4	11の設問で全国より上回る。(7の設問で全国5ポイント以上)
	国語B	9	8の設問で全国より上回る。(5の設問で全国5ポイント以上)
	算数A	1 6	14の設問で全国より上回る。(8の設問で全国5ポイント以上)
	算数B	1 3	11の設問で全国より上回る。(5の設問で全国5ポイント以上)
	理科	2 4	21の設問で全国より上回る。(9の設問で全国5ポイント以上)
中学校	国語A	3 3	27の設問で全国より上回る。(6の設問で全国5ポイント以上)
	国語B	9	5の設問で全国より上回る。(1の設問で全国5ポイント以上)
	数学A	3 6	17の設問で全国より上回る。(6の設問で全国5ポイント以上)
	数学B	1 5	7の設問で全国より上回る。(3の設問で全国5ポイント以上)
	理科	2 5	18の設問で全国より上回る。(8の設問で全国5ポイント以上)

4. 各教科の状況

【○…良好な内容(正答率90%以上) ▲…課題となる内容(正答率40%未満)】

<小学校・国語A>

○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む(招く)(信念)(承知)

▲新聞のコラムを読んで、表現の工夫を考える。(コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く)

<小学校・国語B> *該当なし

<小学校・算数A>

○繰り上がりのある2位数の加法(28+72の計算)

○除数が整数である場合の分数の除法(5/6÷7の計算)

○180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えること

○式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解すること

<小学校・算数B>

○平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解

▲示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述

▲示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求める

▲正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求める

▲概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めれば良い理由を記述

▲長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を記述

<小学校・理科>

▲顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている

▲析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述

<中学校・国語A>

○相手の反応を踏まえて話す

○登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解

○文章から適切な情報を得て、考えをまとめる

○文脈に即して漢字を正しく書く(秒速)

○文脈に即して漢字を正しく読む(袖, 載る)

○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(適切な語句の選択「気象」、適切な敬語の選択「参る」)

▲単語の類別について理解(「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択)

<中学校・国語B>

○表現の工夫について自分の考えをもつ(「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択)

▲複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く(資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く)

▲文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く(文章の最後の一文があった方が良いかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く)

<中学校・数学A>

○比の意味を理解している(12:9と等しい比を選ぶ)

▲数量の関係を文字式に表すことができる

▲証明の必要性和意味の理解(対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ)

▲二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線としてあらわされることの理解

<中学校・数学B>

- ▲与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理
- ▲必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈する
- ▲事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明
- ▲平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉える
- ▲図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明
- ▲資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明
- ▲与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断
- ▲与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明

<中学校・理科>

- ▲実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘
- ▲他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明
- ▲露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘
- ▲凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘
- ▲日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘
- ▲音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画する

Ⅲ 今後の方策（各校における取組のうち主なもの）

【小学校・国語】

- ・単元を貫く言語活動を柱にしながら、導入や教材等の工夫をして関心意欲が高まるよう授業を改善する。
- ・いくつかの情報の中から、必要な情報や大事な情報を読み取るために、段落を要約するなど、まとめる力の育成を図る。
- ・目的に応じて、内容を押さえながら要旨を捉える活動を学習活動の中に設定する工夫をする。
- ・目的や意図に応じて、話したり文章を書いたりする活動では、どこを詳しく話したり書いたりするのが適切か指導することを心がける。
- ・作文の指導では、言葉の引用の仕方や図表やグラフなどを用いる方法を指導し、活用できるようにする。
- ・読書を奨励し、新聞やパンフレット等様々な文章に触れさせる。特に新聞については、「表現の工夫」と「記事における筆者の考え」との関連性について指導する内容を取り入れる。

【小学校・算数】

- ・生活と結びつけた問題を取り入れた学習活動を工夫する。
- ・様々な文章で記述される出題の意図を理解できるようにする。
- ・T Tによる少人数学習や2 C 3 Tなどの授業形態を工夫し、個人差に応じた支援を行う。
- ・基準量や比較量を求める場面において、数直線図や簡単な数値に置き換えるなど様々な方法を用いて、演算を決定することができるように指導する。
- ・図形領域の学習では、図形の性質に基づいて理由を考えたり比較したりする活動に、充分に取り組める場や時間を確保する。
- ・自分の考えを図や文章に表したり、お互いの考えを学び合ったりする場面を意図的に設ける。

【小学校・理科】

- ・学習内容を日常生活と関連づけて考えさせ、身近な場面で活用できるようにする。
- ・観察や実験器具の操作の学習では、学習形態を工夫したり器具を扱う場面を繰り返し設定したりして、全児童が器具を適切に操作できる機会を確保する。
- ・観察や実験から結論を導き出す学習では、既習の知識との関連に気づかせたり、視点を明確にすることで共通点や違いを考える活動を設定したりする。

- ・観察，実験の結果を表す表やグラフなどの読み取り方についての指導を充実させる。
- ・自分の考えを図や文章でノートに書き表したり，友だちの表し方のよさを学び取ったりする場面を意図的に設定する。

【小学校・その他】

- ・朝学習や放課後，各校で実践している特設時間（パワーアップタイム，学力向上タイム，龍翔タイム，チャレンジタイム等）での取組を引き続き実施し，基礎基本の定着や各校の課題に応じた補充指導を行う。
- ・上記の取組と「家庭学習」，「定着の確認のためのテスト（月例テスト等）」との連携を図り，計画的・系統的な指導を継続的に行う。

【中学校・国語】

- ・単元を貫く言語活動を設定し，目的や条件に応じて書いたり話し合ったりする活動の時間を増やす。
- ・文章中の言葉や表現にこだわった読解の指導や表現活動の指導を行う。自分の意見や考えを述べたり，書いたりして表現する際は，文章中のどの部分を根拠としたのか，明確に述べさせるようにする。
- ・自己評価や相互評価を適宜取り入れ，目的や条件に相応しい活動ができているか自分自身で判断し，必要に応じて推敲できるようにする。
- ・振り返り活動の時間を充実させ，課題解決の方法を身に付けようとする意欲を向上させる。

【中学校・数学】

- ・授業，宿題，朝学習，放課後学習会等の様々な場面で，過去の調査問題や単元評価問題，類似問題等を活用して，学び直しの機会を設ける。

【中学校・理科】

- ・結果を比較して考える活動や，数値を用いて規則性を説明する活動を積み重ね，科学的に思考する活動の充実を図る。
- ・ペア学習等の学び合いの時間を増やし，科学的な言葉や概念を用いて考えたり，説明したりするような言語活動を充実させる。
- ・記述に関しては，普段から表現に気をつけながらノートやシートに記入することを意識させ，正しく表現できるように指導していく。

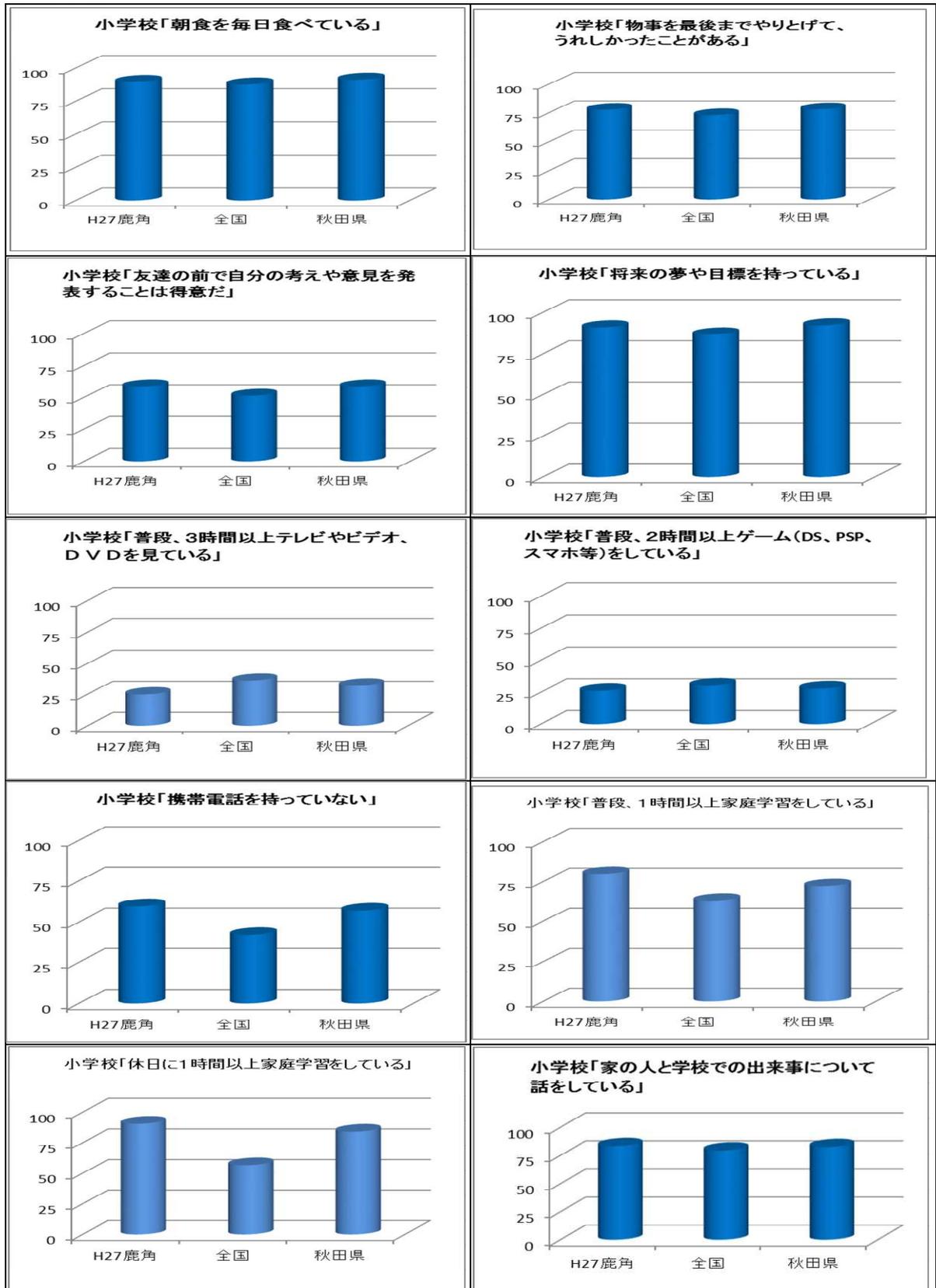
【中学校・その他】

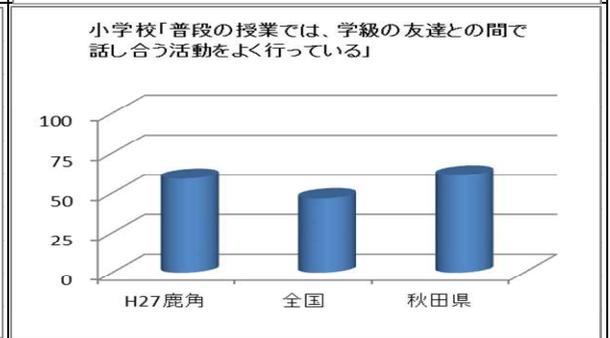
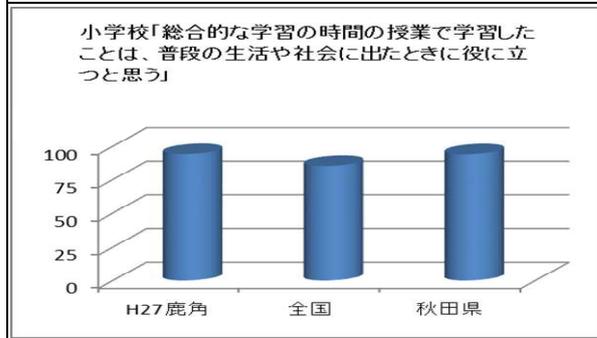
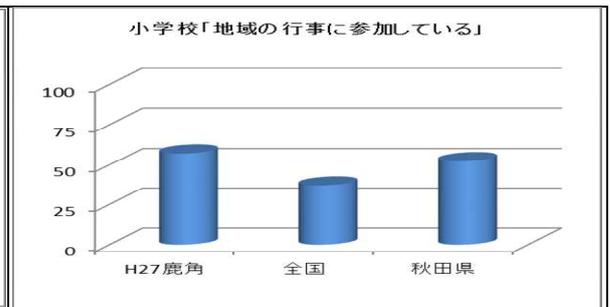
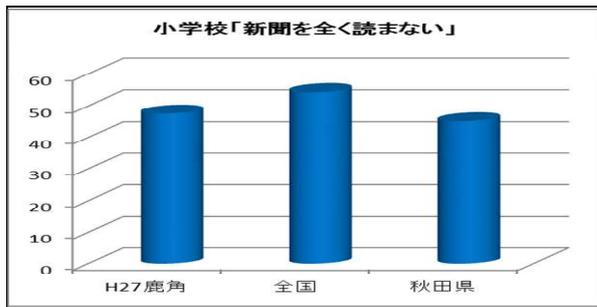
- ・家庭学習の充実（自主学習ノート等の自主的な学習を奨励する指導の工夫改善，メディアに接する時間を減らし学習時間を増加することを奨励する取組の推進等）
 - *各学年1日2ページ60分を目標に取り組み，管理職や部活担当者も含めた全校体制で生徒のノートに目を通し，励ましの言葉やアドバイスの朱書きをする取組をしている学校もある。
 - 当該校では「家庭学習応援デー」を設定し，保護者からの励ましの言葉をもらうようにする取り組みも行っている。
- ・個や全体への学び直しの場合と機会の提供（放課後や長期休業中の補充学習等）
 - *生徒が自分の弱点を克服しやすいように，教師側から学習内容をあらかじめ提示し，生徒が選択して受講するようにしている学校もある。
- ・朝学習の工夫改善（各校の実態・実情に応じて，補充的ドリル学習，朝読書，新聞を取り入れた言語活動等，様々な取組が為されている。）

IV 児童生徒質問紙調査の結果

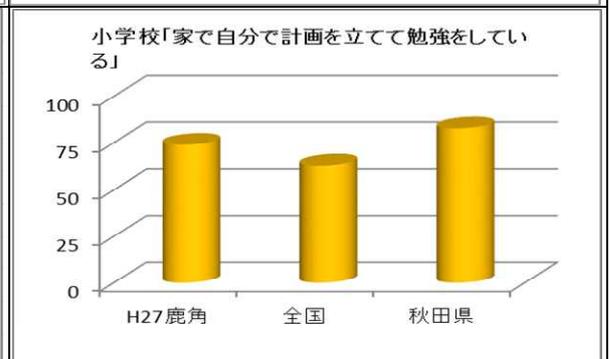
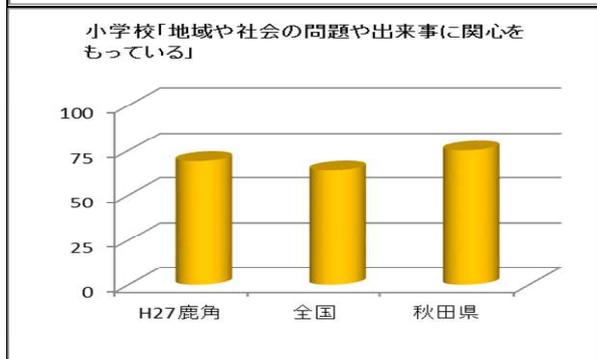
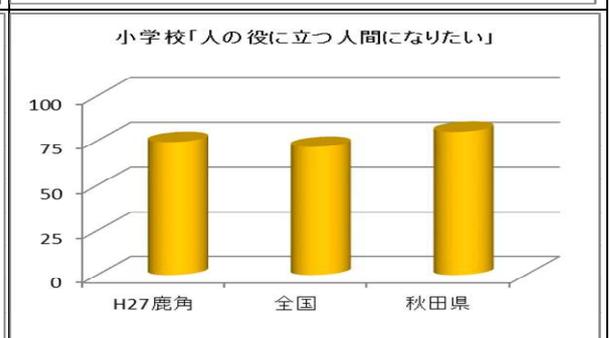
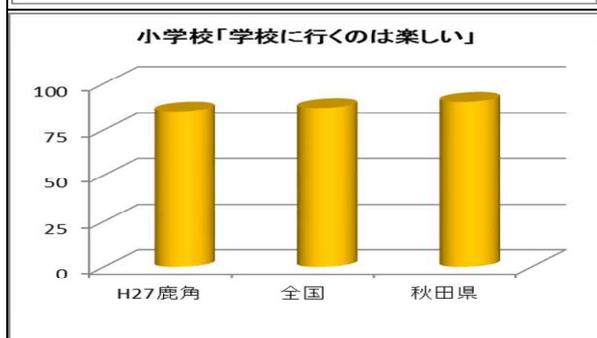
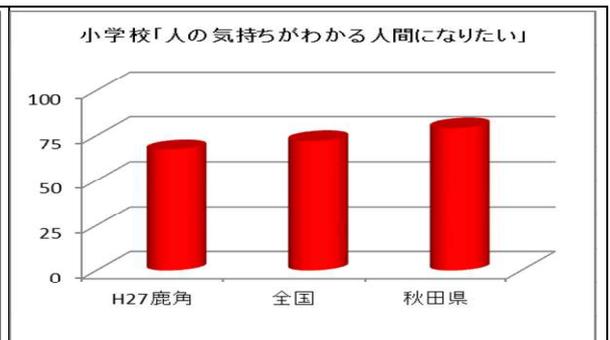
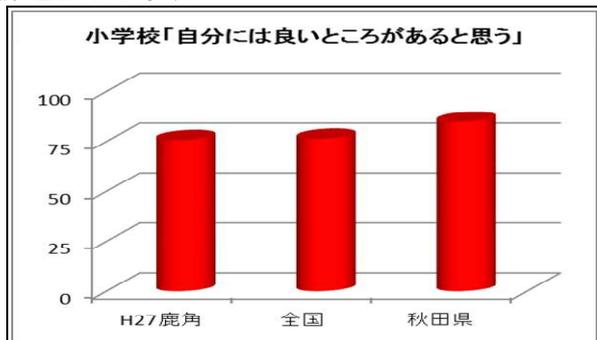
1. 小学校

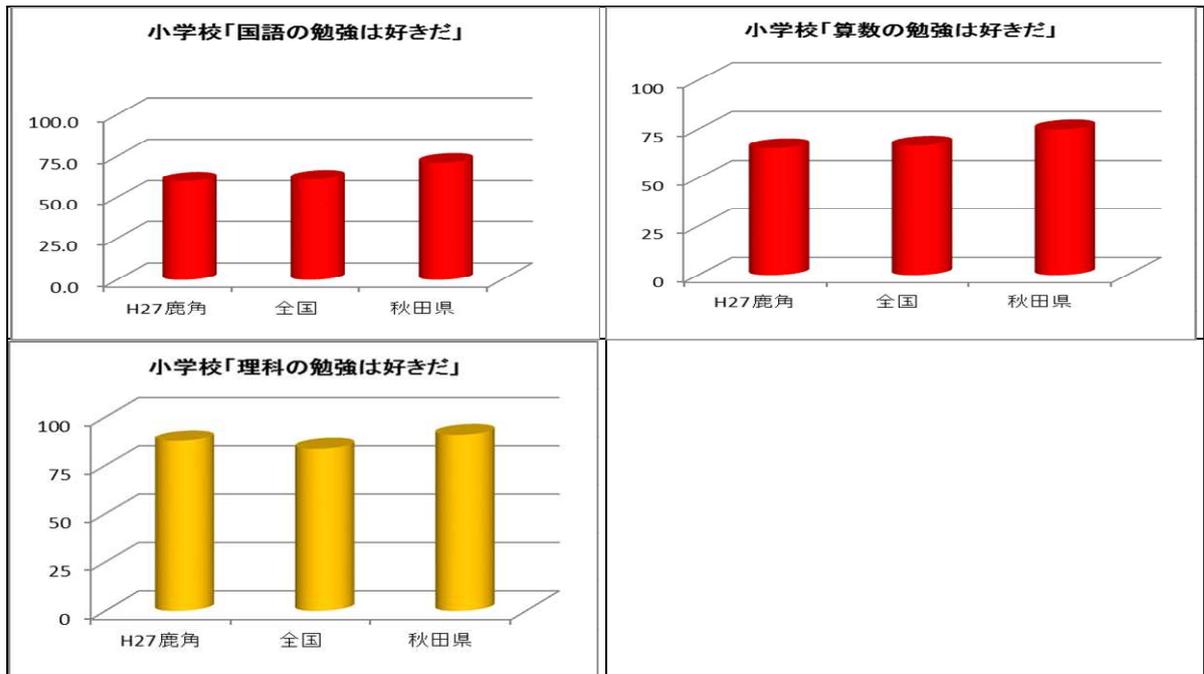
<良好な事項>



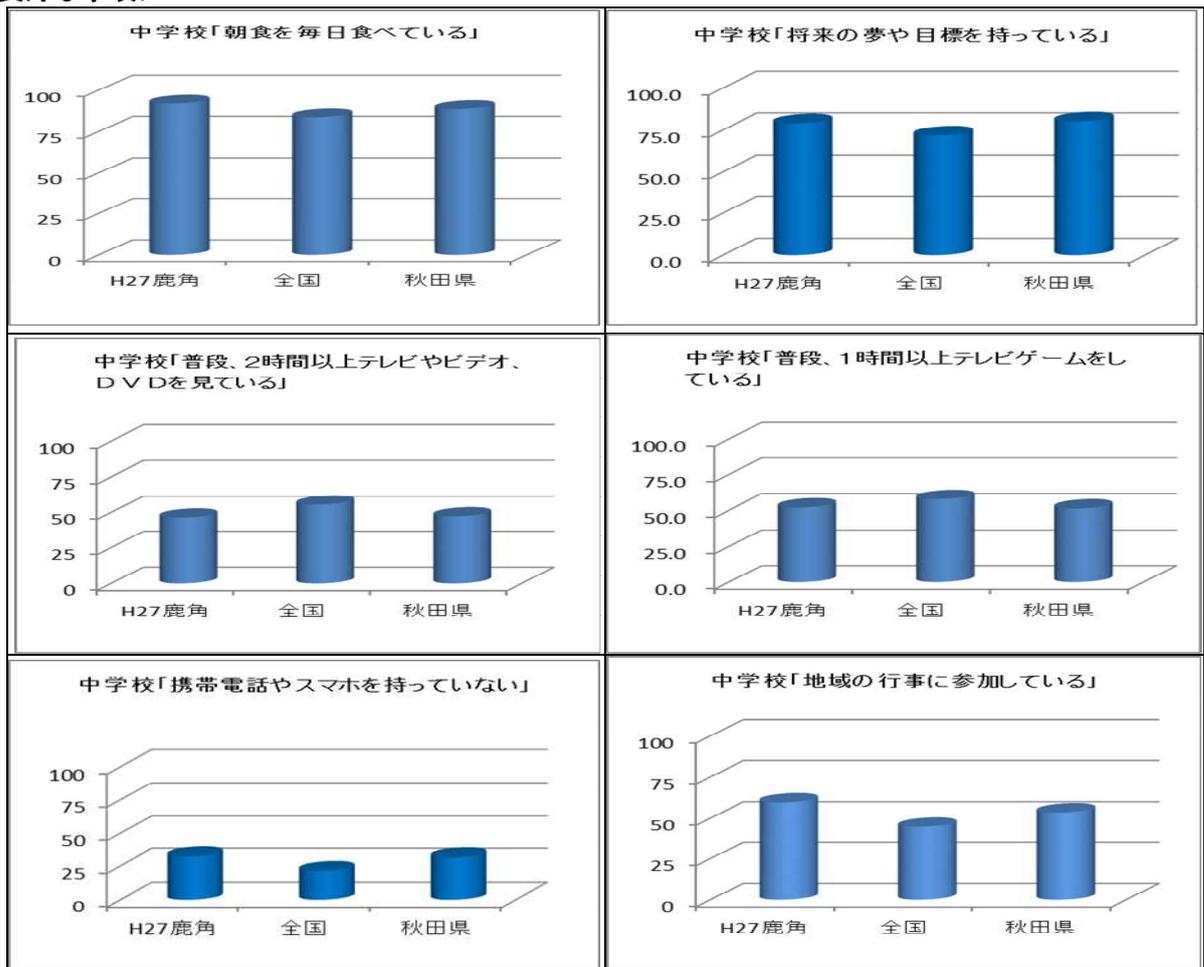


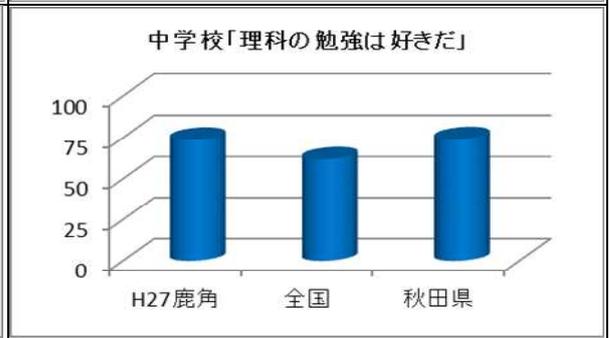
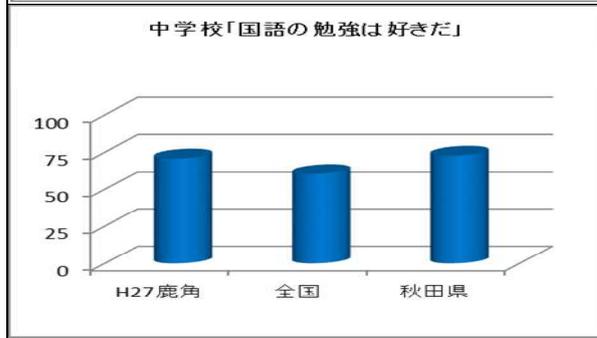
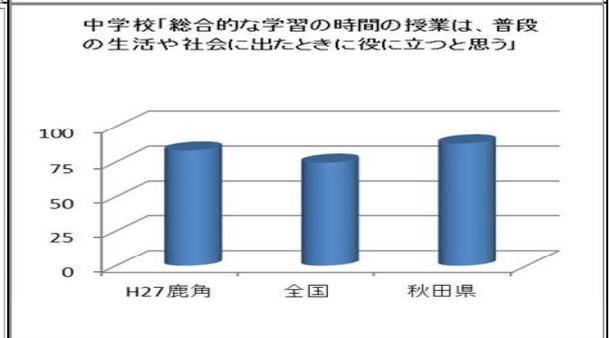
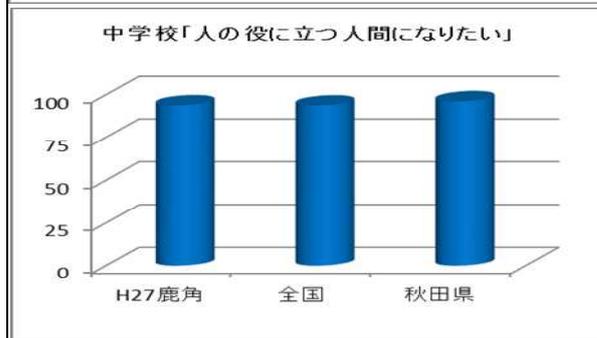
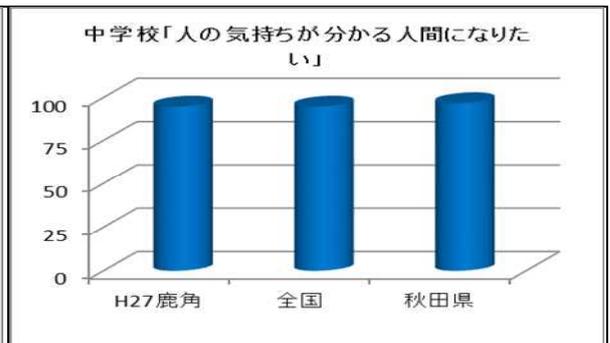
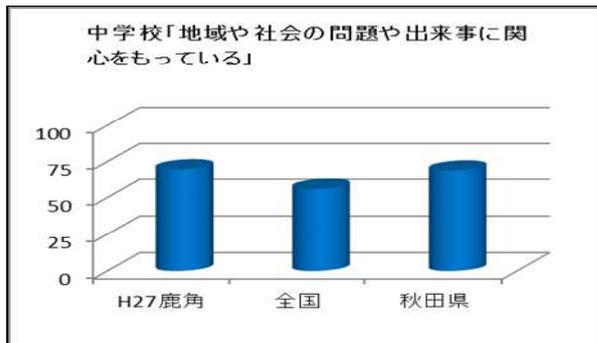
<課題となる事項>



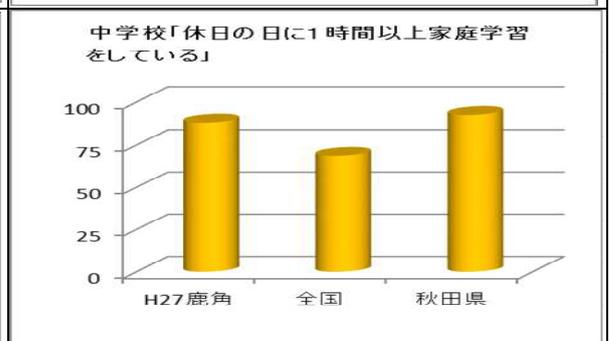
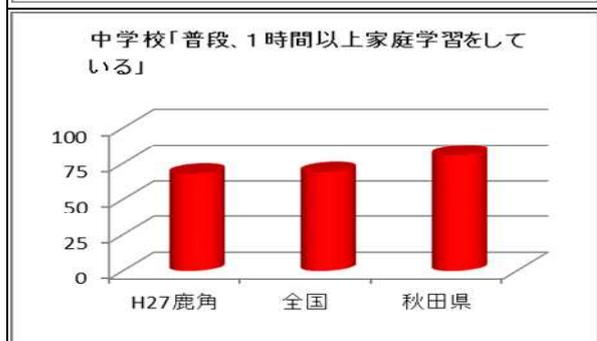
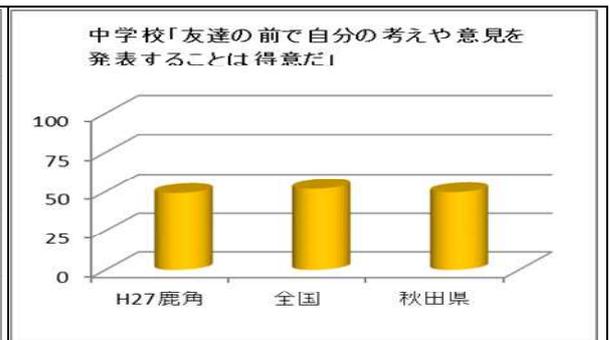
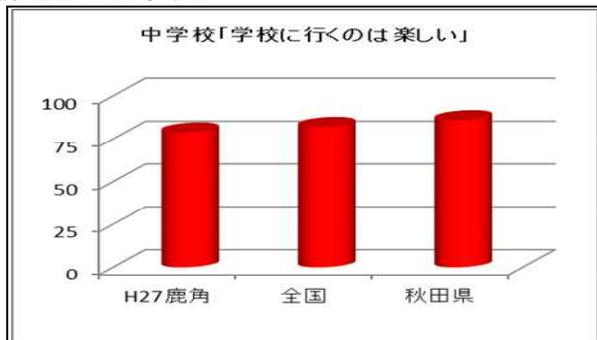


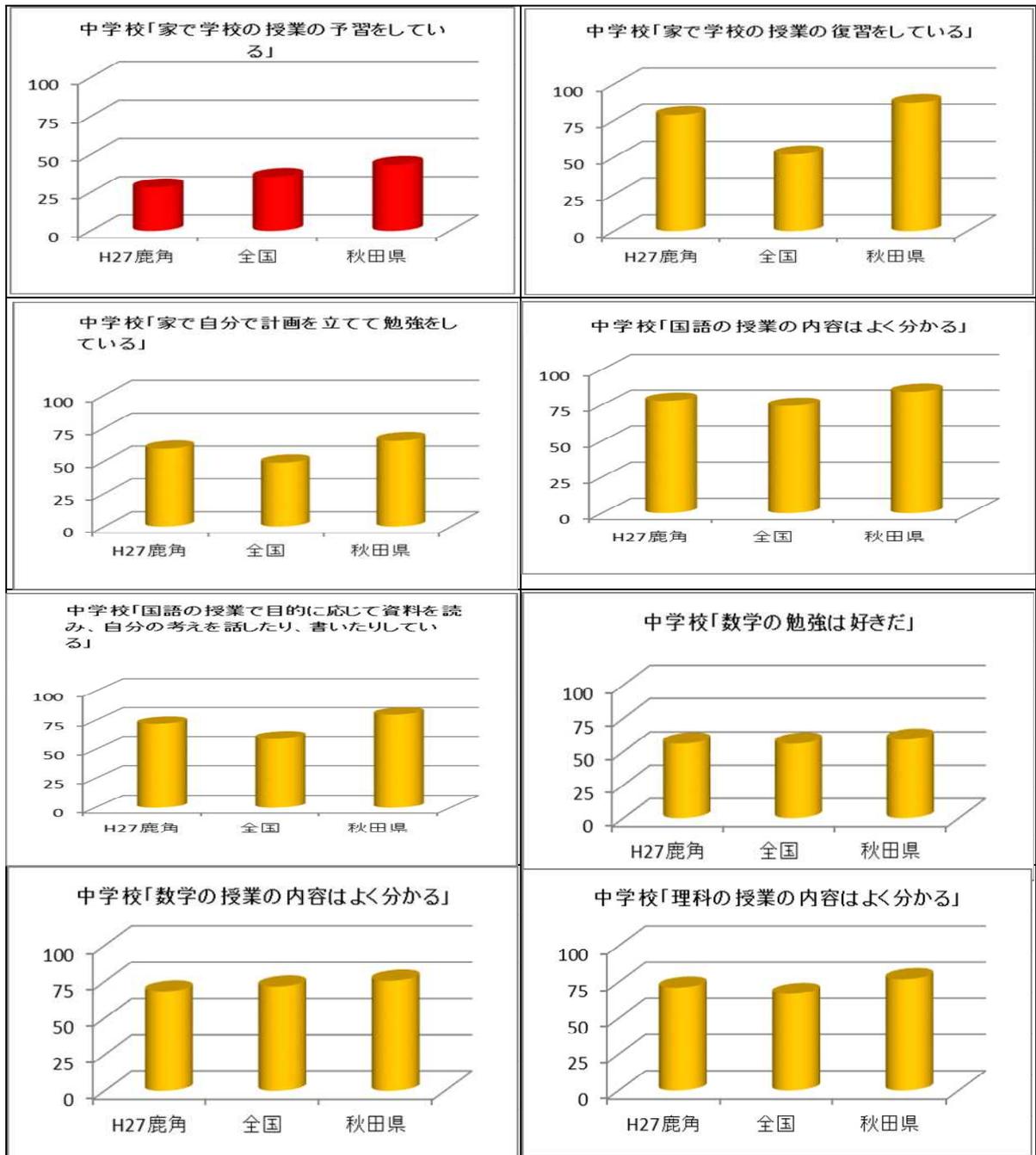
2. 中学校
 <良好な事項>





<課題となる事項>





3. 調査結果から見える課題

【小学校】

- 自己肯定感・自己有用感、他と関わることへの関心
 - ・「自分には良いところがあると思う」児童を各校別に見ると80%を超えている学校もあるが鹿角全体で見ると全国平均よりも若干低い。
 - ・「人の気持ちが分かる人間になりたい」児童の割合は全国比で5ポイント低い。
 - ・「将来の夢や目標をもっている」児童は90.9%もいるが「人の役に立つ人間になりたい」は74.3%に留まっている。

●「活動の成果」と「主体である児童の感じ方」のズレ

- ・学力調査の結果は概ね良好で、ほとんどが全国を上回っているが、「国語の勉強は好きだ」や「算数の勉強は好きだ」の数値は全国よりも低い。
- ・さらに、「学校に行くのは楽しい」児童は85.2%いるものの、県や国と比べると低い結果である。(県平均90.2%, 国87.0%)
- ・「地域の行事に参加している」児童は国・県のどちらの数値も上回っているが、「地域や社会の問題や出来事に興味を持っている」児童は県の平均よりも少ない割合である。

【中学校】

●生徒指導の充実

- ・「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は78.9%で約8割だが、全国の82.1%よりも低い。全県の値86.0%と比べると7.1も低い。数値の高い学校と低い学校に二極化しているため、鹿角全体が低いことを意味しているわけではないが、各校において引き続き、安心・安全な学校生活環境を整え、維持することに努め、生徒相互の望ましい人間関係づくりや一人一人の居場所づくり等を推進する必要がある。

●表現力の向上と授業改善の一層の推進

- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」は49.1%で、国51.9%よりも低い。県が49.6%であることを考慮すると、県民性ともとれる。しかし、改善の努力は必要である。表現力向上の取組は各校で為されているが、一朝一夕には身に付かないため、引き続き取り組む必要がある。また、授業中の発表という視点からも教育活動を見直したい。例えば、教師の発問が正解を求める発問に偏りすぎていないか、関心・意欲を喚起するための工夫は十分かなどである。「国語で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」の数値が県と7.7ポイントの差があることも含め、各教科での一層の授業改善が必要である。

●望ましい学習習慣の形成

- ・「普段、1時間以上家庭学習をしている」中学生の割合が県平均を大きく下回っている。授業で学んだことを定着させるためにも、家庭学習を充実させる取り組みを工夫すること、学習意欲を向上させること、学ぶ意義を理解させること等が必要である。あわせて、計画的に勉強する手だてやその意義について理解させ、「休日に1時間以上家庭学習をしている」、「家で自分で計画を立てて勉強している」、「授業の内容がよく分かる」等の数値の向上を図らなければならない。